

フードバンクかながわ 通信

「もったいない」を「分かち合い」「ありがとう」へ



特集

新型コロナウイルス感染症拡大で地域でおこっていること 10



横須賀市年末緊急食支援

提供先の活動

みんなでクリスマスを～

皆様から寄せられたクリスマスのお菓子を
児童養護施設へお届けしました。

横須賀市は、市内企業・個人に支援用食料品の寄贈を呼びかけ(12月4日～22日)、全庁挙げてコロナ禍での食支援に取り組んだ。非正規が多く制度で見えてこない隠れた貧困による女性の自殺増に対し、食支援をきっかけに、絶望しないでとメッセージしたいと企画した北見福祉専門官はいう。相談窓口情報・コロナ対策一覧表を食品セットに入れて渡せるなど食支援は福祉の強いツールになる。

市ではコールセンターを設置し、24、25日に1470名に渡した。市長からの呼びかけに経済局も動き、米1.7トン、餅1.3トン、パスタ1500束、カップ麺3850個、缶詰6300個以上他が集まった。



幸保愛児園は葉山・逗子・横須賀市の18歳未満の児童50名が生活する児童養護施設。鎌倉児童ホームには2歳から18歳までの80名が暮らす施設。日頃より関係の深い三浦半島労福協の皆さんが24日にお届けした。社福) たすけあい結は3つの児童福祉施設(横浜型家庭支援センター)で子(母子)支援を行っている。浜田理事長は「子供たちの喜ぶ顔が目に見え」笑顔。



橋本さん、糸数さん、榎原さん、皆さん・たくさんのお菓子の寄付ありがとうございました。

食糧支援かわさき+学生エール

12月19日(土)に川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)で「食糧支援かわさき+学生エール」が開催された。この企画は新型コロナウイルスの影響を受け生活に困っている川崎市在住、在学の学生を支援する企画で、180名の学生の申し込みがあった。フードバンクかながわからも米などの食品を提供し、市内の企業や社会福祉法人からも多くの食品、日用品の寄付があったという。

当日は食品の配付だけでなく、協力福祉施設でのアルバイトの情報や暮らしの相談窓口も設けられ、多くの学生の相談に対応。川崎区にある専門学校等に在学する留学生の参加を見込み、相談員や通訳ボランティアも配置し、外国でのコロナ禍の不安の解消にむけて親身になって対応していた。(薩本)



協力団体からの仕事募集チラシもセットし、学生を支援する



皆さんからの声

●ひとり親世帯からの声

「最近、うち豊かになったね!」と息子が喜んでいますが(50代)冬は体があたたまるものが助かります。いつもありがとうございます(40代)

コロナ禍において小学生の子を育てつつ苦しい日々を送っている中、非常に助かりますありがとうございます。(40代)いつもおにぎりやふりかけでお米食べてます。安い同じような食材ばかり使っていますので、目新しいものが頂けて楽しく頂いております。感謝です。

コロナの影響で仕事が減っていたのでとても助かります。提供者の方々、ボランティアの方々ありがとうございます(40代)

●学生からの声

正直に言うと食品をもらうことに恥ずかしい気持ちで一杯でした。気張ってくれた皆さんのお顔も見られなかったのですが「がんばってね」と笑顔で言っただき、涙が出そうになりました。

●相模原市からの声

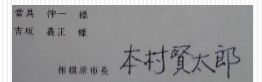
のべ6033人の学生にご利用いただき、「家計が助かっている」「いつか恩返ししたい」など多くの感謝の声を頂いています。引き続きご理解ご協力をお願いします。

●子どもたちからの声

お菓子やジュースをありがとうございます。楽しいクリスマスになりますように。

●寄付者の声

小さな支援が集まり、大きな力となって皆様の所に届いたと伺い、小役に立ててよかったという思いです。バイトがなくなり、学費の捻出に苦慮しているなどのニュースを見ますが、私が今できることがあれば、何かお役に立ちたいと思います。



相模原市本村市長から
感謝状が届く

フードバンク活動情報交換連絡会

12月16日県内フードバンク情報交換連絡会をフードバンク倉庫兼事務所で開催した(コロナ対応の亚克力版を設置)。市民活動のフードバンク継続を支援する助成金、福祉情報の共有サイト、食支援空白エリアへの対応、研修など課題を共有した。



お問い合わせ

公益社団 フードバンクかながわ info@fb-kanagawa.com

236-0051 横浜市金沢区富岡東2-4-45 発行責任: 藤田 誠
Tel 045-349-5803



基本情報 2020年度の累計 (2020/12/25現在)

寄贈された食品 872回 149.4トン	提供した食品 1749回 145.6トン
企業等 305回 127.0トン	行政・社協 432回 31.1トン
フードドライブ 567回 22.4トン	地域のフードバンク 271回 40.4トン
	子ども食堂等 627回 41.8トン
	自立支援施設 54回 2.6トン
	福祉・病院関係 253回 20.1トン
	調整 0.3トン

11月は寄贈 8.9トン
提供 12.5トン

(2019年度実績 寄贈 97トン・提供 92トン)

合意書締結団体

寄贈締結団体	136団体
提供締結団体	197団体
行政・社協	49団体
市民団体	148団体
(子ども食堂・居場所・施設・福祉関係含む)	

賛助会員寄付状況

団体会員	164団体 590口
	590万円
個人会員	235人 1019口
	1,091千円
2020年寄付金	11,164,818円
寄付累計	22,538,261円

12月の状況 12/1~12/25 寄贈16.1トン 提供15.6トン

【寄贈食品】 16.1トン	【提供食品】 15.6トン
事業者 11.0トン	行政・社協 3.8トン 28団体 46回
フードドライブ 5.1トン	地域のフードバンク 2.6トン 15団体 22回
	子ども食堂・居場所 3.3トン 39団体 48回
	施設関係 0.1トン 5団体 5回
	福祉病院関係 5.8トン 17団体 26回

以下敬称略で報告します。

寄贈

経済活動が再開され、企業からの食品寄贈が増えていません。継続的な支援としてコカ・コーラから13,800本、日本食研からたれ類128個、日生協からあんかけ豆腐310個、新規に鎌倉のリユウカンパニーから温麺・常温豆腐等181個。防災備蓄品はアクセント、アツギ工業、日本赤十字社神奈川支部、立教学院から。

フードドライブ

ヨーカドー店舗803kg、ユーコープ常設店760kg、JA横浜女性部400kg、横須賀市150kg、JA湘南女性部161kg、Micronメモリージャパン135kg、直接宅配等での寄贈は49件0.5トン。クリスマスのお菓子の募集に3,219個355kgが届いた(写真裏面)。



相模原市のMicronメモリージャパンでは社員の呼びかけで135kgを集めるフードドライブ



JA湘南女性部600名から集めた433品161kgを渡す馬鳥女性部長(左)

米一合運動

延べ1.8トン

相模原労福協100kg(以下数字は重量kg)、横浜市労福協33、川崎市労福協35、高教組20、西湘労福協30、小田原足柄地域労福協5、自動車総連武部鉄工所労組60、相模原労福協44、横浜市労福協66、三浦半島労福協102、浜教組22、KTグループ労組34、県中央地域連合労福協288、ワークピア2、JAMコイト電工労組45、アビオニクス労組3、湘南労福協291、相模原労福協68、日立製作所労組15、全水道神奈川支部50(届いた順)



浜教組、県中央地域連合/労福協の皆さん

提供

横浜市・横浜市母子寡婦福祉会、地域のフードバンク、子ども食堂からフードパントリーに移行した団体等が一人親支援に力を入れている。相模原市子ども若者支援課は、引き続き学生支援を継続。難民支援の鎌倉市「アペルなんみんセンター」に提供開始。年の瀬と住宅確保給付金支給の期限、社協の小口資金の返済開始などで、各行政・社協が一斉に食支援に重点をおき、横須賀市から400世帯分、川崎市から240世帯分の困窮者支援。川崎市社協から学生200人分、相模原市生活支援課から追加の支援要請。地域のフードバンクへ米 4.4t。コロナ禍での需要と供給のバランス調整に追われています。(土山)

理事メッセージ

篠崎みさ子 理事

(生活クラブ生協理事長)



新型コロナウイルスの影響で失業者は7万人を超えさらに増え続けている厳しい現実が続いています。パート、アルバイト、派遣社員などの非正規雇用の人の仕事が無くなっていく状況で、フードバンクの食支援がとて必要になっています。食品の寄付が増える一方で食品が必要な人も増えていることを組合員に伝え、フードドライブ活動につなげることで、保管倉庫の整理などのボランティア活動、賛助会員が増えるために提案し活動につなげたいと思います。

さらに、フードパントリーも地域でのつながりや拠点となっていて、支え合う地域づくりがひろがる重要な拠点となっていることも共有したいと思います。

居場所や子ども食堂など、孤立や貧困に向き合う地域づくりをすすめる、だれでもが行ける場所があって人と人がつながりたすけ合える地域コミュニティづくりをめざす活動には、フードバンクかながわはなくてはならない活動です。生活クラブは1月にもフードドライブを呼び掛け、今後も継続して取り組むことが必要な活動であることを伝えていきます。

寄稿

「フードバンクかながわ」への寄贈および研修会に参加して

JA横浜女性部 部長 若林恵美子さん



女性部活動が思うようにできない状況がありますが、今年の6月頃、コロナ禍で生活に困窮する学生やひとり親家庭が支援を必要としていました。そこで、JA管内の女性部に協力を仰ぎ「フードバンクかながわ」を通じて寄付を行うとともに研修会に参加することになりました。

今回の支援は7月に続き2回目となります。要望のあったカレー粉やお菓子、カップ麺、切り餅と寄付金を寄贈し、協力いただいた女性部のお気持ちもお伝えしました。

また、体験研修ではフードバンクの活動内容を詳しく学ぶことができ、より一層理解が深まりました。

そして、7月に「フードバンクかながわ」へ伺ったときは、棚に寄付された食品が山積みされていましたが、今回は非常に少なくなっていて驚きました。いかにコロナの影響が大きいかを改めて感じました。

この活動は、世界中で力を入れているSDGsにもつながります。JA横浜女性部もこの活動の一環として、今後もお力添えができればと思います。



おそろいのエプロンとフェイスガードで研修するJA横浜女性部の皆さん